

ご冥福をお祈りします

お名前	性別	亡月日	享年	地区
大崎 達則	男	12.1	72	㊦北組西
池田 清隆	男	12.2	71	㊦佐野
小原 君恵	女	12.3	91	㊦伏原
町 玉恵	女	12.6	102	㊦西本町5
岩崎 貢	女	12.9	90	㊦永野
小松 芳美	男	12.12	86	㊦小川
門脇 美水	女	12.15	85	㊦五王堂
公文千代子	女	12.17	89	㊦萩野
吉本 照子	女	12.17	89	㊦本町
島村 真裕	男	12.20	84	㊦前山
石川 洋子	女	12.20	89	㊦原東
別役 廣満	男	12.23	85	㊦西町
藤原 廣子	女	12.24	79	㊦永野
谷内 繁子	女	12.24	90	㊦北組西
萩野 宮子	女	12.28	96	㊦梅久保
阿部 章一	男	12.30	65	㊦中野
片岡 安子	女	12.31	90	㊦神母ノ木
小松 福喜	女	12.31	92	㊦下の地
上池 静子	女	12.31	97	㊦中野

※地区名の㊦は土佐山田町、㊦は香北町、㊦は物部町です。  
※ご家族の同意をいただいた方のみ掲載しています。

市の人口 令和3年1月1日現在

総人口	25,911人	男	12,250人	女	13,661人
前月比	-8人		-4人		-4人
山田	19,952人	香北	4,325人	物部	1,634人
前月比	-2人		-2人		-4人
世帯数	13,070世帯	転入	34世帯	12月出生	9人
前月比	-7世帯	転出	21世帯	届出死亡	40人

お誕生おめでとう

赤ちゃん	性別	出生月日	父	母	地区
山中 一織	男	12.8	俊直	みなみ	㊦太郎丸
大塚 百恵	女	12.18	啓一	久恵	㊦秦山町1
宮地 海	男	12.22	翔	明日香	㊦旭町4
篠崎結惟香	女	12.25	佑輔	美和	㊦栄町

木材市況 12月14日 第373回市(物部) 12月22日 第135回市(香美)

材長	樹種	スギ(円/m <sup>3</sup> )		ヒノキ(円/m <sup>3</sup> )	
		径級	直・小曲	直・小曲	曲
4m	12cm下		9,000	9,000	9,000
	13cm~14cm		9,000	9,000	12,000
	15cm~16cm	11,000	8,000	20,000	15,000
	18cm~22cm	13,500	12,000	17,000	15,500
3m	12cm下		8,000	8,000	8,000
	13cm~14cm		8,000	8,000	10,000
	15cm~16cm	12,500	9,000	18,000	12,500
	18cm~22cm	12,000	11,000	17,000	14,500
2m	20cm上	8,500	8,500	6,000	6,000
	6m	18cm~22cm	18,000	16,000	24,000

杉は前回と同様に売りやすい状況が続いているが価格は横這い。桧は15~28cmまで強気配。桧の6m、18~22cm品薄が続いている。

ヒノキ3・4m共にバランスよく直造材。スギ径級15cm~28cmまでは3m、低質材を含むそれ以外は4m造材。余尺10cm程度入れてください。

営業時間 月曜日~金曜日 8時~17時(祝祭日休み)

なお、上記の単価は1m<sup>3</sup>あたりの平均単価です。

【問い合わせ先】  
物部森林組合ストックヤード (物部町中谷川314) ☎57-3540  
香美森林組合国見支所/繁藤ストックヤード (土佐山田町繁藤140-7) ☎57-9114

香美市文芸 風の流氷

◆一般投稿作品◆ 岡崎桜雲 選

まだ何か問ひたげに雪風に舞ふ  
時雨虹薄々有りぬ濃くなりぬ  
吊し柿風に揺れつつドレミアソ  
種蒔きを終えて降る雨有難き  
陽だまりを何故出歩くや瘦せ狸  
小米雪御伽の国へ誘はれ  
コロナ禍の入場制限運動会  
温暖化に慣れし体に朝の霜  
新米の照り輝くは汗の色  
留守番の猫にクーラー付けしまま  
山茶花や和尚のおわす保育園  
里山や干し柿のれん車窓より  
柿すだれ洗濯物とせめぎあい  
万両の深紅に燃えて花の市  
寒雀歩く私になぜ逃げる  
老松も勢い立てる若緑  
秋祭り氏子四戸の宮ありて  
豊作の棚田に老の一人影  
凍みる夜半北斗七星すぐ其処に  
新芋と一服の茶と月を待つ  
梅雨もまたよしやベッドに本をよむ  
餅入りの袋頂く秋祭り  
里の柚子取る手しぼる手忙しき

◆美良布俳句会◆  
子の思ひ親の云ひ分虎落笛  
木守柿ダム湖に映し水鏡  
境内に人波騒ぐ餅拾ひ  
一の宮散り初めたる大銀杏  
峡の空日当りながら片時雨  
山里の落葉くるくる蜘蛛の囀に  
たつぷりと峡の日を吸ひ干蒲団

◆かがみ野俳句会◆  
晩秋の空へ手庇機影追ふ  
九十歳ひ孫九人去年今年  
月光に湖底の村は光り合ふ  
柚子の香や青春ソング厨から  
冬の田や夕日塗れの群れ鴉

◆かほく俳句会◆  
うたせ湯に暝り師走の外にをり  
コロナ禍の闇を貫く去年今年  
読み進む初氷見しと里の文  
実生柚子搾る一滴寿司の味  
ながらへし命寒夜にただ祈る  
妻呼びにゆかねば冬の虹見れば  
七曜にめりはりあらず年詰る  
煤払ひ釘打つ父の背を思ふ  
男手など要らぬていどの年用意  
風花にコロナしばらく忘れをり  
念入りに師走半ばの硝子拭き  
冬ぬくし花鉢手に庭に降り

◆土佐山田町俳句会◆  
腰掛けるさきも無き程布団干す  
産土の神の庭掃く師走かな  
冬ざれや岩のくぼみに石地藏  
短日の荒神様に幸けんび  
雪ひらりテネシーワルツ踊ろうか  
石路咲いて今日という日を恙なく  
車椅子のまま冬耕を見ておりぬ

◆今月のキラリ◆ 広報委員会  
吊し柿風に揺れつつドレミアソ  
吊し柿は、渋柿のヘタの部分を残して皮を剥き、細縄等に吊して置くと、だんだん色が濃くなり甘くなる。長さがまちまちの幾つもの吊し柿が風に揺れているさまを、音符になぞらえ『ドレミアソ』と表現した、可愛く楽しい一句です。

俳句・短歌の投稿方法  
▼投稿方法は自由。住所、氏名、電話番号を明記してください。  
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。  
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。  
【投稿先】 総務課内広報委員会事務局(俳句・短歌係) ☎782-8501(住所記載不要) FAX53・5958